事務事業調書	No	804	課 名	文化財課	起 案 者	伊藤基之
平成23年度			係 名	文化財係	決 裁 者	杉浦講平
事 業 種 別	市民サービス		区 分	継続	業務一覧No	11,12
事務事業名	文化財調査事業				他 係名	
					他係 業務一覧No	

1 事務事業の位置付けと起案事由(事業の必要性)

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 2 文化財の保護と育成 1 調査・保存管理の推進	予算科目(会計)	一般会計	
		予算科目(款・項・目)	50-25-70	
		総合計画以外の計画		
		関連する総合計画の施策		
性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの（選択的事業）	法定受託事務	無	
根拠法令	有	文化財保護法		
実施方法	一部委託	委託先	その他(名古屋市立大学)	
実施期間	開 始	平成18年度	経 過	5年目
	終 了		期 間	
公約・議会答弁	有	H20.3.5定例会市長答弁（二子古墳周辺整備準備）		
陳情・市民要望	有	H13二子古墳周辺整備、H17姫小川古墳保護、H21福釜農業倉庫保存		

2 事務事業の概要

求める成果	誰(受益者)が	市内の文化財を所有する団体及び個人が	～になる	未知の文化財や文化財の価値を知ることができるようになります
事務事業の内容	歴史的価値のある建造物調査、寺社等文化財の悉皆調査、県から依頼される文化財調査など、市内に所在する文化財の実態を調査します。史跡整備についての調査を行います。取り壊されてしまう建造物について、記録保存を行います。			
事務事業進捗状況	社寺建造物悉皆調査を平成18年度から行っています。国指定史跡（二子古墳・姫小川古墳）、県指定史跡（本證寺境内地）の史跡整備に向けて、市外の類例史跡の調査及び関係機関との協議などの予備調査を行っています。本證寺境内地については国指定史跡をめざし、20年度に基本構想を作成しました。22年度から本證寺所蔵の聖徳太子絵伝複製事業を実施しています。			
改善・対策の履歴	【平成19年度】建造物調査の成果をリーフレットとして刊行し、広く市民にＰＲしています。			
環境配慮の視点	環境目標○－基本的施策○－具体的施策○			

3 事務事業の事業費(千円)、人員推移(人)

	項 目		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度
			目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)
コスト	総事業費 f=a+d+e		11,242	9,127	10,154	9,754	16,920	16,304	9,669
	財 源 計 a		6,046	3,931	2,925	2,525	8,938	8,322	9,669
	財源の内訳	国 庫 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		県 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		市 債	0	0	0	0	0	0	0
		その他( )	0	0	0	0	0	0	0
		一 般 財 源	6,046	3,931	2,925	2,525	8,938	8,322	9,669
	受 益 者 負 担 金		0	0	0	0	0	0	0
	職 員 人 件 費 d		5,196	5,196	7,229	7,229	7,982	7,982	0
	内 訳	従 事 職 員 数	0.69	0.69	0.96	0.96	1.06	1.06	0.00
	人事課予算分人件費 e		0	0	0	0	0	0	0

4 求める成果を得るための活動

				年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
活動	活動①	活動名（活動内容）	歴史的建造物調査委託業務	見込(単位)	1.00	1.00	1.00	0.00
				実績b(単位)	1.00	1.00	1.00	
		指標名(単位)	経費(式)	活動の総事業費f 実績	3,960	3,930	4,839	
				単位コストg=f÷b 実績	3,960.00	3,930.00	4,838.50	
	活動②	活動名（活動内容）	県依頼調査	見込(単位)	1.00	1.00	1.00	0.00
				実績b(単位)	1.00	1.00	1.00	
		指標名(単位)	経費(式)	活動の総事業費f 実績	377	377	753	
				単位コストg=f÷b 実績	376.50	376.50	753.00	
	活動③	活動名（活動内容）	その他の活動	見込(単位)	0.00	1.00	0.00	0.00
				実績b(単位)	1.00	1.00	1.00	
		指標名(単位)	(式)	活動の総事業費f 実績	4,790	5,447	10,712	
				単位コストg=f÷b 実績	4,790.20	5,447.30	10,712.30	

5（1） 成果の目標と実績

		指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
成果	成果1	文化財調査件数(式)	見込(単位)	1.00	1.00	1.00	0.00
			実績(単位)	1.00	1.00	1.00	
			達成状況	達成	達成	達成	
		目標成果指標値	0.00	目標達成年度			
	成果2	指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
			見込(単位)				
			実績(単位)				
			達成状況				
		目標成果指標値		目標達成年度			

5（2） 成果１、２以外の成果

	市民の意見、利害関係者の声などをプラス・マイナス両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
成果	悉皆調査によって、文化財の価値が確認されることで、指定文化財等への基礎資料が提示できるようになります。また、これまで知られていなかった歴史的事実が明らかになることで、地域の市民の文化財に対する関心が高まり、文化財保護の啓蒙にも繋がります。

6 単位コストと成果の分析

	項目	どのような内部の取り組みや外部要因が影響を与えたのか、プラス・マイナスの両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
分析	単位コスト	文化財調査という専門性から、調査を委託できる相手が大学等の専門機関に限定されます。
	成果1，2	調査成果によって国・県指定級の文化財について、図面等の資料があることで、文化庁調査官が現地視察に訪れることができます。建造物緊急調査を実施した際に、市内に江戸後期の民家が現存することが判明し、今後の調査対象に加えることができました。建替予定の神社に関して、事前調査による建造物の文化財的価値について地元説明を実施し、今後保存も視野に入れた計画をお願いしました。

7 所属長の改善案

	コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案、市民にわかりやすく説明する
改善	年次計画を定めて、調査及び成果の報告書刊行をすすめていきます。また、調査がただ単なる調査・専門家の間での研究対象としてだけにとどまるのではなく、市民に成果の還元、調査物件が保存されるような取り組み、助言等に生かすことにより、文化財の保存にも活用していきます。

8 方向性

方向性	必要性、効率性、有効性を踏まえ、今後どのように事業を進めるか、方向性を選択し、内容を市民に説明します
維持・継続	市内にはまだ知られていない文化財があり、今後地域の歴史資源の活用を考えていく上で必要です。